

食でなりたい自分を見つける

社会で働く卒業生の姿

栄 養 士

給食委託会社



周囲を巻き込み、
頼り頼られる人になりたい

さまざまな世代や施設を対象に食事を提供する給食委託会社に就職し、高齢者施設を経て、今は保育園で100人の園児の昼食とおやつ作りを担当しています。子どもたちが残さず食べてくれたときや「おいしかった」という言葉や笑顔が私たちのやりがいです。園児のアレルギーには二重三重のチェック体制を整え慎重に対応しています。短期大学の「基礎調理学実習」や「給食管理実習」での大量調理は、そのまま現在の厨房業務に活かされています。どんな仕事もひとりではできません。周囲から頼られる人、そして周囲を巻き込み頼られる人になりたいです。

(2018年3月 卒業)

保育園



子どもたちと触れ合い
自然な食育ができています

保育園で園児・職員20数名分の調理や献立づくり、食材調達などを一手に引き受けています。在学中の「調理学実習」で先生からいただいた的確なアドバイスや、個々の学生の力量を見極めたご指導が今とても役立っています。

(2017年3月 卒業)

小学校



食育を力強く進めることで
子どもたちの健康に貢献したい

小学校に常駐し給食の献立作成はもちろん、毎日教室を回って5分間指導を行い、生活科の授業も担当しています。子どもたちの「おいしい!」という笑顔と、食育が進むほど残食率が減っていくことに、確かな手応えを感じます。

(2017年3月 卒業)

高齢者施設



お客様の「おいしい!」が
最大のやりがい

給食委託会社で高齢者施設に配属され2年目から厨房リーダーを務めています。幅広い年齢の従業員をまとめるにはコミュニケーション力が必要ですが、短大時代の実習でのグループワーク体験が役立っています。

(2017年3月 卒業)

就職率が高い
ワケ
その理由は?

本学就職課長のコメント

2年間という限られた中で、授業や学習に充てる時間が多く、「短大での学びを職業に活かしたいという意欲を持っている」、「短期間で集中力を持って学ぶ姿勢がある」、そして「素直である」という3点が、栄養士や食品関係の仕事に必要な資質にあてはまり、高い就職率に直結していると考えます。

企業採用担当の方々からのお声

- 毎日多忙な業務でも明るく責任感をもって仕事に取り組んでいる。在学中に多くの実験実習をグループワークをしながら学んでいることが業務にいきている(食品メーカー)
- 栄養士としての自覚と誇りをもち、誠実に日々の実践に取り組んでいる(保育園)
- 誰よりも強い責任感と向上心をもって業務に取り組んでいる(飲食店)

[入職2年目の卒業生の勤務先へのアンケート結果より]

実績

2021年3月卒業生
女子栄養大学短期大学部

就職率 100%

